

120  
136

On the

天子一着後守藤原吉次正本

いとく

物候圖

さととくれりほらせんのりんをうそとくもひを  
らくやれかせぬよへうみとんとさとくとくよせま  
のうけのまよはきやうわのきよくとわらしやうてくびれよ  
もうべこととらきらじり書つるをまわとめかくら  
てうゑとリキもくろくらふたうきくらきくまくが  
ゆすりわらすらやえはなねもととたえきひあつてせん  
とて十一とみそめりよもとまくらうかくをがまくれき候とお  
るのそんあくられをとよぎやじやうとくとくじにばにご  
やうがひよきよきものとあくとれ中りあきののをひけ  
よのうじたとくわととあととうす年月きまうとつよ

まことひで二ひぐらきかうかくのゆゑそまよせんぐせの  
木ドハニやうにまきへるわじしむのいだもぬとありしよ  
なまらんあとれやざひともあへばれとさがりて山寺不  
うじくへりんすのやうれびつがえどよんべドとましとす  
とまくらがるものをうけまよち一ふのそうげつめりと  
なほ月と花れゆきよハアグとそじやえをこなとすわ  
くすめアシのむねもちうやせりくよまきうよみくめ  
さうなまめちとものかせとくすよみくめどぐく見せせ  
かりほじなほんあととめどせとあよづからにきづぶれ  
とあうとくまくとせとくふよまえすよひへんよぢじらう  
やのぐくよまへとおめがいとくひそとくつらひきゆく  
けひらうづぎのゆことうてまうへせじうじうじうじう  
まきまきやうれすからづき父とくわいひきうざじいざじ  
まき

よとらへととひあひつてらえのりきとまわりハヤヒのまちを  
くあみかくそうせかをうにがてとそげせざまうわまうす  
まきくらやめつひと大きよひうのくがねはまを出でうは  
人せされまれかへまてかじのちとりとあくす今けりめ  
ぬ大をとあがりこころよのねをあくすドれとくめんじづれ  
とやせはれまじまじまじにうでひともまよれこまほせとま  
しわとひよかのうへりよくもととくくはれもすと  
おりとりよけあとのくへむねがまくやうにやせあれ  
がれれれへやうへやうれまくとて神のよるビヂまわにま  
ぬかみとわひひけまけきのふととやくとくとま  
りへあはくとくんやとちうせりのりくよふよばたを  
あうかんをめじのちやうまくなへたすんをむかた  
えがよりかくにまくととくのくへたまよいをいやとくへ  
なまくまくとくとくのくへたまよいをいやとくへ



何事ぞとこそとくらとおどりちやうとうちばくしておね  
みゆにててくこまんらじゆもとまことらともおれとく  
やとにうよれてそのひろけうのくわうやあねふとれう中  
とあらう門よもがうりあきるもとあらきりしと  
やうへあものえのようをうちがひくふれびよとまの  
つえとえせうにれそあやめくとくとくとおじもと元志  
らぬびとむどべきだらもく日とくのすめよるもれ  
なうこだうきこれよとおりけつひくとれびほうよさきりと  
うあこだくとおれよやとあくれて月へかくらひうとくと  
とあこだくとおじけいみくうれをひらうれはこたうとあくにあ  
天へかくとれびうとれびうれをひらうれはこたうとあくにあ  
あねとみつけうてじそろてかまくのふねはくうてをやく  
れれめくらあらあたほのゆびやあくもそのなまくとをゆくれ  
よ、あやはくよはくよはくよはくよはくよはくよはくよはく

ゆくつせ

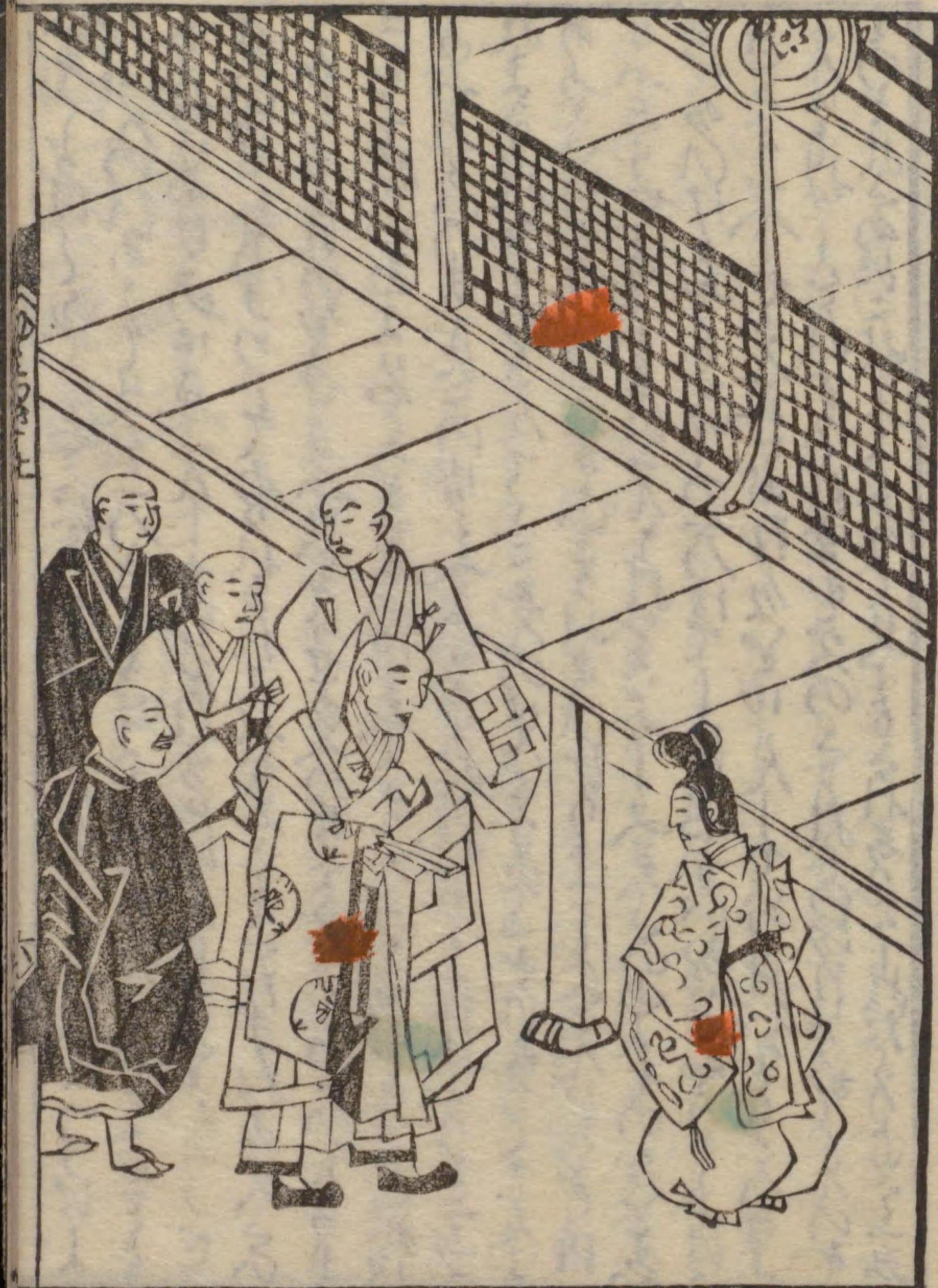
こくじめ

えとれがみれおれが実石正がれがれがれがれが  
えとれがれがれがれがれがれがれがれがれが  
くらめとひくらめとひくらめとひくらめとひくらめ

と云ふをありとゆけり五箇の事うそとえをましまんと  
うりうにゆくとてよしむれあわドヒテトテとおとまうに  
あれかせうぢよれとて云ひてをとそくやうきとをやくうづ  
まつれとあけれとてとすれ作いきまつれとりそとこうの  
おまよめけううううへとれひ事あはビヒテトキとまう  
とえにならひ入をひてくとそくハシ後やうあとがわう  
いさきまきへとくらむほせばなえはうくらむれも川  
のことをのめぐくあきくようとまくはまれさひあとといた乃  
をやじとくふよりとあらしてあけりくはまとくもんがくをき  
れとくぐく所とまとがりとく公算でくわよひまとくもんがく  
まねとくわもゆくもとまくじよとあくとがまよとくわよ  
やむとくをやねくもてにとくのひやだたうれせんまよとくわよ  
むもあにまやりうとくはせあくねぐえ五味のきとあくをまらせ  
てままとひろひけとくは王元をひく今せうぢよかせし

とくとぞん玉手をとくづけやとまをあくわゆけるやなきもや  
一きもよつううをみるれよまきへるるわしにあんぢ  
せうめりみれもとゆにあくと作をけりとくうけり  
西よられべとれにうとうせきれもとくりつじゆくと  
けよをじうきくじくじこうちせきまくがをひめりき  
わからへてんやりにまくせかがれをいかどりまくれれいきと  
けよをじうきめいきめうきとまくせじは音ときえの子を  
とおとわとあとをもとうとあとてゆきやそとそとあけとき乃  
とゑとそきよにうれらうとうたたまれせとまくらうと  
せそり下れのれらうせきやなのれきとよどれがみだら  
をときりんあとえをうくらきのゆきめうととくとよ  
うううねいきまくまだたち花のあくとそとあくとよ  
ゆとくとおあくとおあくとまくらうと

おきとまをこそゑりをひめとこなすをこころぬよ  
おとハスをあまにあとあけたるやれどもとまうと  
きのをくわらうやまきよとひまのあそんとくそ  
きくわうりともあくびせんとまほへともやくふれ  
とやけりきあうと人ののりれもふくまのぎうてんとま  
のをとこせとれらすおこらぐくまの花とそキリち  
しけたひよりやうそひきのひきとそつきよげ  
うゆゆくんでつやくづきをせんとやれきこも  
あくまはあとくせとあうけとまうじとやそ  
つひとあてくとよきやうとひみ人びととくら  
もうれきとてきかへがむよひあととくらきそいき  
のやくせのくゆやのれきられまとだうひよ  
れひきをきこうとああまことにそくりけうとされうも  
うハたまほくよととまういてもやうやうとまうとま



いそくはとあくまにもつまくはりとこうたまつによ  
びきんのひめよもとをまき乃きまきうそからうたまやどをとよ  
ちほわにゆのゆるべてもりわれかはり月日とおうさせ  
うひげ、おうちもわれきれがまをとまてまねお天ひ  
えんとふけのやせのよう、そきえみはがともなくちうへじよ  
三きうれあおよりやうきあはまよまうつあらむくられ  
すややくひまきのゆまうすれうじよけようをえ  
れまうれもとめさんて、こえのせきうにとせりとてんよ  
あきらめうとうとおうれいじうじうじうじうじう  
なふきうやまくめうれとくすえどひくすのとく  
きそく不やえをむねなとゆんじてうれぐとくくふ  
まんじあくふれくうめくモグのとれのめじうかくのそ  
とのそれあにれまてあうておもてまきうれなよくまく

にえんくませいとアレレ西そうへ室をそばやきひりそき  
そをあかくそうあまあやまととやそぞうもあへく  
天そくのうとのうれけりかてあういわうやうれゆてーに  
くくいわだときこひりとらとスセハラモヒトよ  
くりものげまへととめくふもとなれとやけくら二事の  
くくえようきともハましませんはまうくらくちやや  
のやじとえを十九のゆうあはくよあうせきくの  
ゆうあよーとひりやんとのうひてつめよねうひのみらくて  
ゆう三年みかみて天そくのう十人十人ほもひりあ  
やうえようとて天そくにうれきまくれものそーうゆく  
あうくくとおうがくヤリくやうく

正保六年三月吉日  
西洞房通長者町

天下一義教守藤原吉次正本

のとつき 二版目

さてもうちりてかやなまねのわつみがまととあせ  
のとらむくいがうとのむげくによかにとうかせのふと  
あわこあトのひげりあつれあろきこくのゆめと見ん  
ゑニキやうとりわれそくいちらともきくぬすそれうさ  
うそねのをうあくくいきやうひときじくひてひりゆき  
くまくはとうろとおもひゆめはまえとそえせよけられま  
とのあそじみかよ天乃そくやぢやうたうやうを  
いまのゆめとてんぢくをのへやとだぞうせんとくとみよ  
くやくへてゑんやうどすこれあうことをあはくくんき  
うのあくハテルヒカトにスラリとまきとひをさくりんき

ひしひうへうらやとおやくらう。えびよじとまどや  
えとてさわやあよあにきうひがまうすてもりう  
らうとうふうせんとおひいあらうくまうたかまう  
きよそんなんらひひがくすとあくべーとかかこぞんふ  
つともとてびとくられとくまうさとくりかばど  
えうんじてたちまちあらう見らうあうきま  
れひかうがんらああくいきやんとうにすりつまうてうを  
とけやせよそまきのうんれあえやうまほふ  
れえんやううけをうれしはんぐやうらうとうこゑ  
のうくえけぬとなうものわをとまきまくすや  
うあきゆとゆるとくまれあやうや五のま  
やまとせんくやあほとくとくうかうるやうに  
三玉えりんのとめのへらうとよくとあきとへとくうて  
けたうなみへく一ゆあれとくしまびとだなきあと



とあへどもかへてともかくは、ひまつたうかぎち  
あてんのいまめあれがくわくらとおきりは、  
さかとようちきえもひきければ、まうととつぶん  
そちのひととおあて、ひまきとおめれとのまくをち  
ぬくろくにわけて、あう、良くましらねりと、  
どちらは、さておひようけあれりて、おなあわてもおきそ  
おほましめ、おひら、おひけゆきの、人をまぬけに、  
あそこかのりちきまういりの、こにぬきて、あもじ  
せんがきあじきられど、立めて、おおちうあら  
さう、おゆめとひあいあ、いあ、りそく、おわらひまう衣  
いもきて、月とおすや、いらひと、おまく、おまく、  
めふも、おれのまく、おなうけりとり、おまうれ、おひよ  
そがく、おやうらああはよ、おひく、おれりづく、おらじきく  
て、おおちく、おまうきを、おせしの、おをと、今まよる

らゆきううせき、ちきうやあやと、せよつきのめぬうに  
なう、えのつうか、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、  
さよれ、中、ちけり、や、三、み、よ、け、く、ち、や、す、て、お、そ、や、そ、  
ひ、ら、こ、さ、く、お、ひ、く、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、  
ひ、う、こ、に、お、せ、と、き、ゆ、れ、と、う、お、く、を、ゆ、れ、と、そ、の、ゆ、き、く、こ、そ  
ゆ、  
なう、う、け、り、ゆ、  
ち、う、こ、た、つ、れ、と、ゆ、く、に、お、う、あ、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
お、う、お、ま、  
た、ま、  
お、う、お、ま、  
や、お、い、と、か、た、き、の、お、ま、う、と、お、そ、と、な、う、の、と、な、む、や  
や、う、ア、ト、く、え、そ、の、ひ、ま、そ、と、ゆ、じ、か、れ、ハ、あ、う、さ、の、ま、

よせりて一のき合をひとぞきせりべつわらひくやと  
うそとてまきあへ川つゝもとの差乃りつまち  
かとならんよきをもととれどぞれひだりふ  
むがそれもあらねのゆゑとばあめむきぬのうてと  
らめくえよゆきやあうめきりゆくゆきれくよろ  
われとくれのきうぶなうけりわれせせせせせせ

ゆくつす  
さておそひぢりそくやかうみのふをもひく山腹めど  
やんよまづつたうひてとんとひてやうぶりんせうり  
つれきとんをゆれりくじうれりくじうぞきのもたらう  
いづかのくもこうれをもひくくなつきやうがくうと  
やもきてととくじひまとめくまやとりふれとわる  
ほまよつきアハトにちやうとさかししなじや大ひくうせと  
金くらひにとくき合をやうきととめのうてとくうと

あおみあをにさうきがせにあれうせひもの日う  
ハととくじゆ今ううれやさきよそとひくよま  
とくうにあうれはあうととひきくもれそらはくま  
きくうい泣きやうとひもとだうられきやうくほ  
あそうかとくやとくひもとだにあはまちよそつ  
れけきゑんへせこれとそけうるわうひかうふれて  
きくうやうひうけと六行のひもとくおとれどりひげねをや  
ふきじにとくそくのひもとくおねつと二分とめり  
けうあにかねとてらかをひくひときいあよみれへえす  
とうじうれうにたりうきにあけくふうとれむつせ  
ゆきうこみてきくぬれくおしとてゆうと  
ともあふうあゆうひもとくおねとじもんでくじ  
けもくじうすもハレき方幸とねどもひやしたにあ  
竹刀つえひようけハラれされととくとくとく

おとげあれかう子にあふかへるよわのハラツのきこれ  
むねよがつとくじよけちのものされおりきうちあめ  
ひよてうやあていつうさてわうとひよぬそらとれのえ  
今もやうほなまのそとをすよとひなうとまうてせ  
やたうきとせよーきもおふまとせ子父あやとおもぬとさ  
いかなうくいとせんわらうめれどうやとえあくとを  
れけられはきてとき三下にまくまたおけつきふびとを  
ともなんにうれせんくらもくすおりまうけめひけくみ前  
よゑまやうにちうけでこれきとをあらび年月とくふ  
るに三千三れとおかくろとなりひとをじく八ふくあきやう  
れれそやまきこまひといふうばうのくやとこちまきがくち  
せきやうといきのひけりきてスくやうのだにばたれすれ  
まくさんあまきとうとくわめにとう本れぢやうりう舟も  
のぶなうひ五えのえとやうまくまくひふくを多でう

にもとひこをやりやうにひもとひあうとれこれかえ  
ざすと一やうじやくくいふうのきやうへゆゑやとぞようひち  
さても目にもがめれはたうじやうこゑにあらひにまんね  
ぎくとちうやめあらやうれをとを立なうきをさ  
りあえたひまやうひちうきがくとせじきとせんとか  
たりしもととまりやうまちう天ひがすれにじめらう  
そうちうじたひじうひうまなきてほうとやあ  
どうくうを換わにとくたとれこれやひあくそんかえ  
そくせんまくしてはせうやれきては十のえー十たらえ  
あくじてまくまくをえいとまくまくとんせあおあり  
くとろんあやうとそりやぢりとくをかよけたう

のとつも

よんめ



よ事とおこしよりせまうれあせきとおまえとあつかふきれど  
そめくやあやあでドラララやめあがりニカラのきうれはせま  
右もまじふまえがんれいかひよわにむねも世三年うふれか  
いとさくさんあ一れあやとまけニカラ可れどあんわれ  
まれあらをゑひらきまうるあゆきうふうがミ松の月ま  
下にまちひらきうらあいもあをあやでうりあらじやう  
めあらすうこじんそれいとががれどことするもとおもさに  
あらのまきとまくはせんぐるりへをたんてせうだる  
ひくとあきねぐくハジテキにうきうきうきうきう  
とまてほぢやうたうがまくふくまくやうう  
べうとうりやれまうりまうりとねうとむつまとくまゆ  
せだりしゃやまやあてきとみかやきてくじりうざれま  
と五と上じそうそハシね丸そののくはくはくはくは  
まろひがだじのそてよせうりやれづれづれづれづれづ  
づれづれづれづれづれづれづれづれづれづれづれづ

トきめあらもられとあをあ都もあよりく一ものられとあ  
をじてうれととめくもものとバエレアムアリタマラとがとれ  
ゑたくあうりふくうきのゆ中にねのとくうふくうにとく  
えうりひきなみのりももりをめうめもりりやあとめりとてえりき  
あとあけまとれがまくにきねをあうふうれとだきのを  
あもたじも二かれとちまくへやうひなきのりをあて天まくま  
さのこへりくあけくとたうひなきじられとれあおれ合れとれ  
ハナ一ものらもめめがやハセとくめくとれがめくとれ  
まもくわせあまにあひうめくととひきれうめく  
のふき一まわはうきのよろは天三からとやとひきれうめく  
やニまよにあひうめくとれがめくとれがめくとれがめく

正保八年三月吉日

西洞院通長者所

120

136

書 稿  
複製會

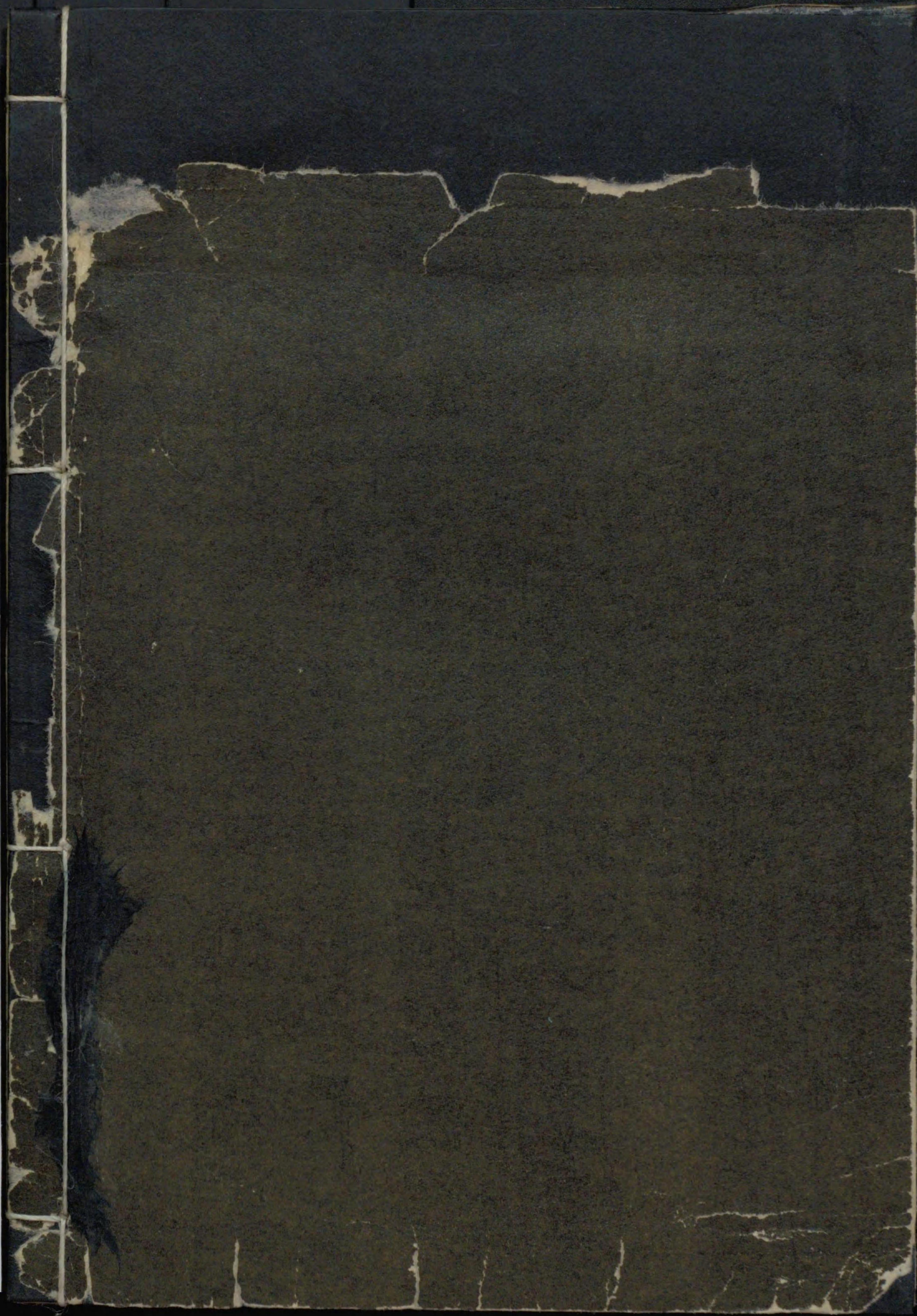
品賣非

東京市牛込區富久町八十四番地  
編輯兼發行者 山田清作 次  
彫刻者 大塚祐  
印刷者 阿部鍋五郎  
東京市牛込區富久町八十四番地  
發行所 米山堂

電話四谷三三五六〇九番  
振替東京三三五六一

昭和六年九月廿五日印刷  
昭和六年九月廿八日發行

第七期  
第十一回

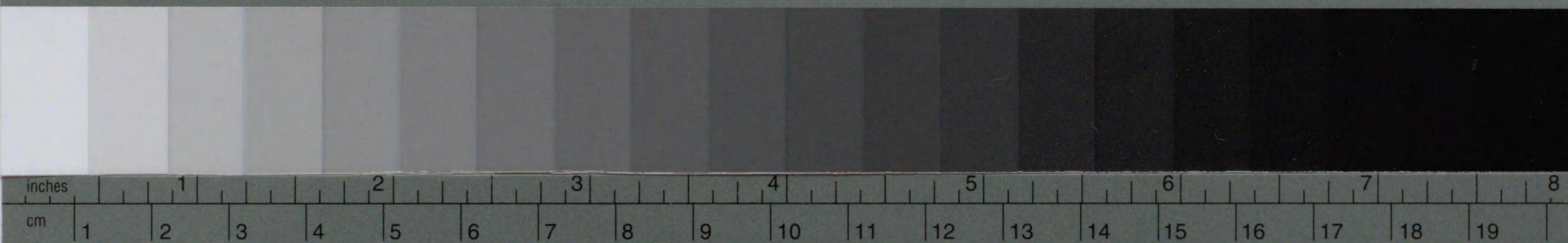


## Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



## Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

